

# **高等情報教育研究グループ (高等研) 枠の発表**

**2012年9月9日(日)**

**報告者: 村上和繁**

**(園田学園女子大学 契約職員)**

# 本日の報告内容

**第1部. 高等研グループの活動報告**

**第2部. プレゼン発表会・ワークショップ**

# 第1部

## 高等研グループの活動報告

**チーフ: 正木幸子(大阪商業大学)**

**メンバー: 飯田慈子、石桁正士、岡本久仁子、  
下倉雅行、中村民明、野口伸一郎、  
森石峰一、横山宏、村上和繁**

# 高等研の活動日

○毎月第3日曜日にミーティング

（8月は休会、12月は第2日曜日）

○次回のミーティング

第107回 9月16日(日) 13:00～17:00

大阪電気通信大学 寝屋川学舎

A号館 401A室にて

○新たな参加希望者も歓迎

# 高等研での研究テーマ

## ○科目デザイン

（科研費2007年度-2009年度）

## ○プレゼンテーション教育

（科研費2009年度-2011年度）

## ○学習者特性

（科研費2011年度-2013年度）

# プレゼン研究の年表

2006年 正木先生がプレゼン教育の手法を  
提案

2007年 }  
2008年 } 試行錯誤して、実践

2009年 }  
2010年 } 科研費レベルで研究  
2011年 }

2012年3月 一区切り

# 正木式プレゼン教育の概要

- 教育目的:リフレクション能力の育成
- 対象:一般教育科目のプレゼン初心者
- 手法:役割を分担  
:リハーサル代行

**D-P方式**と命名した

# D-P方式のコンセプト

○役割

○ペアリング

○指示と確認

○リハーサル代行

○リフレクション

# 役割

○D(ディレクタ)役

制作する役 例:制作者、演出家など

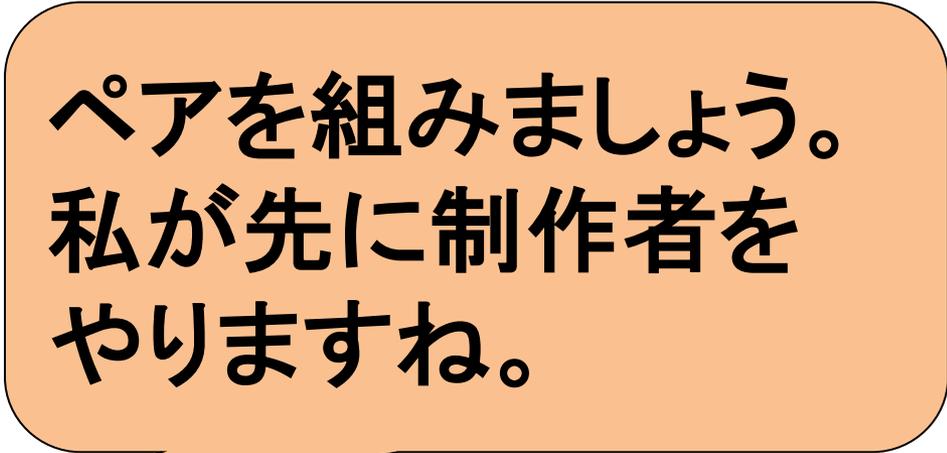
○P(プレイヤー)役

演じる役 例:俳優、役者など

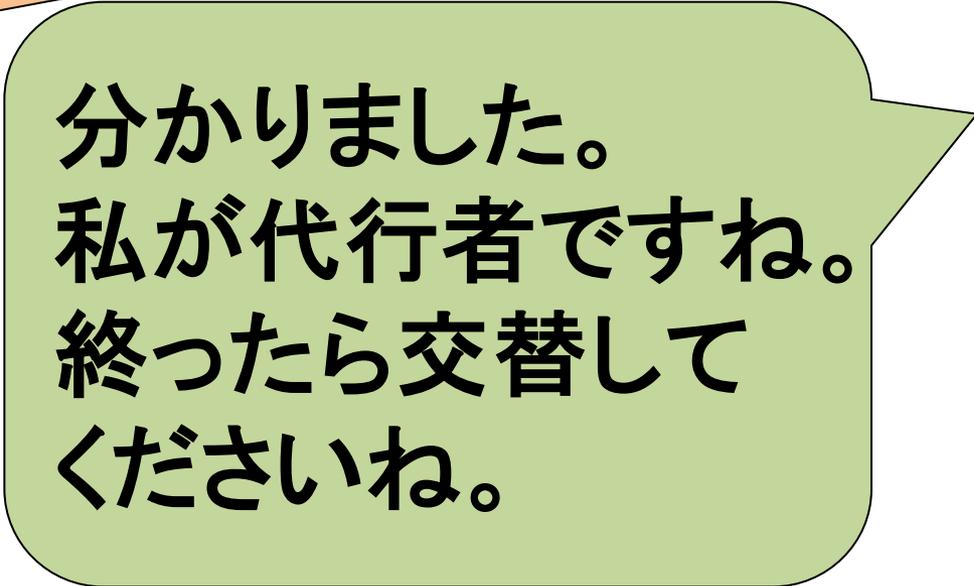
○A(オーディエンス)役

評価する役 例:視聴者、評価者など

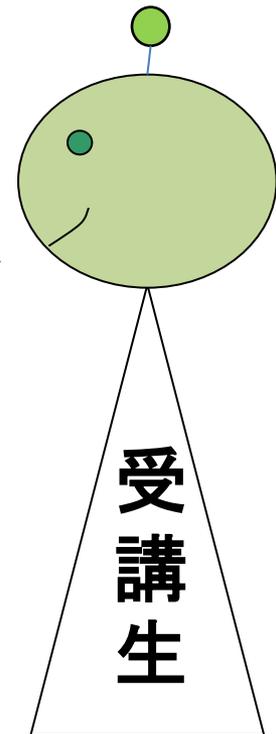
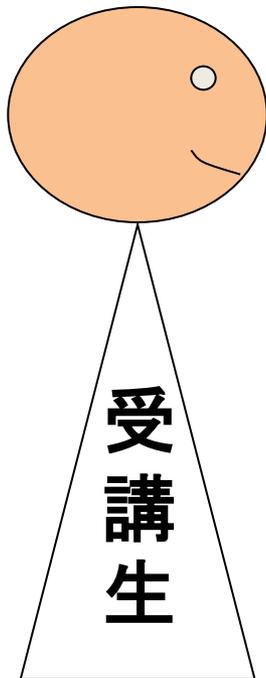
# ペアリング



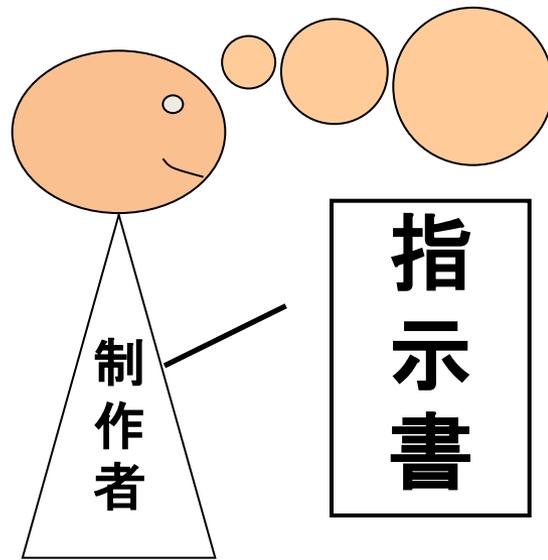
ペアを組みましょう。  
私が先に制作者を  
やりますね。



分かりました。  
私が代行者ですね。  
終わったら交替して  
くださいね。



# 指示書の作成(プレゼンのチェック)



(D役)

考えてきたプレゼンの  
内容や演じ方などの  
表現を指示書に書き  
こもう。

(プレゼンの**外化**)

# 指示と確認

これでお願ひします。

了解。  
つまり、こういう  
ことだよね？

指示書

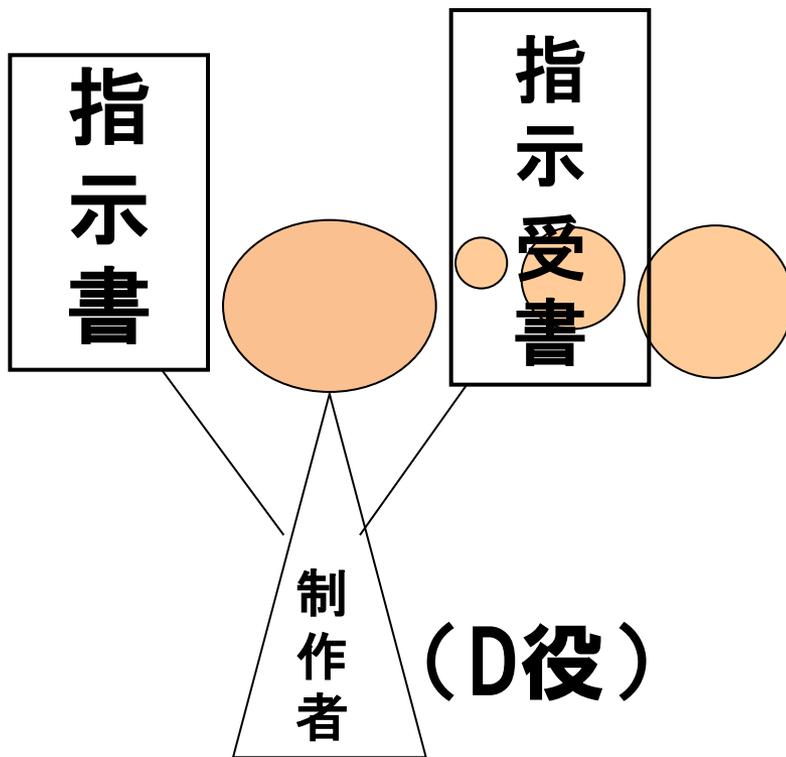
指示受書

制作者  
(D役)

代行者  
(P役)

(役割間コミュニケーション)

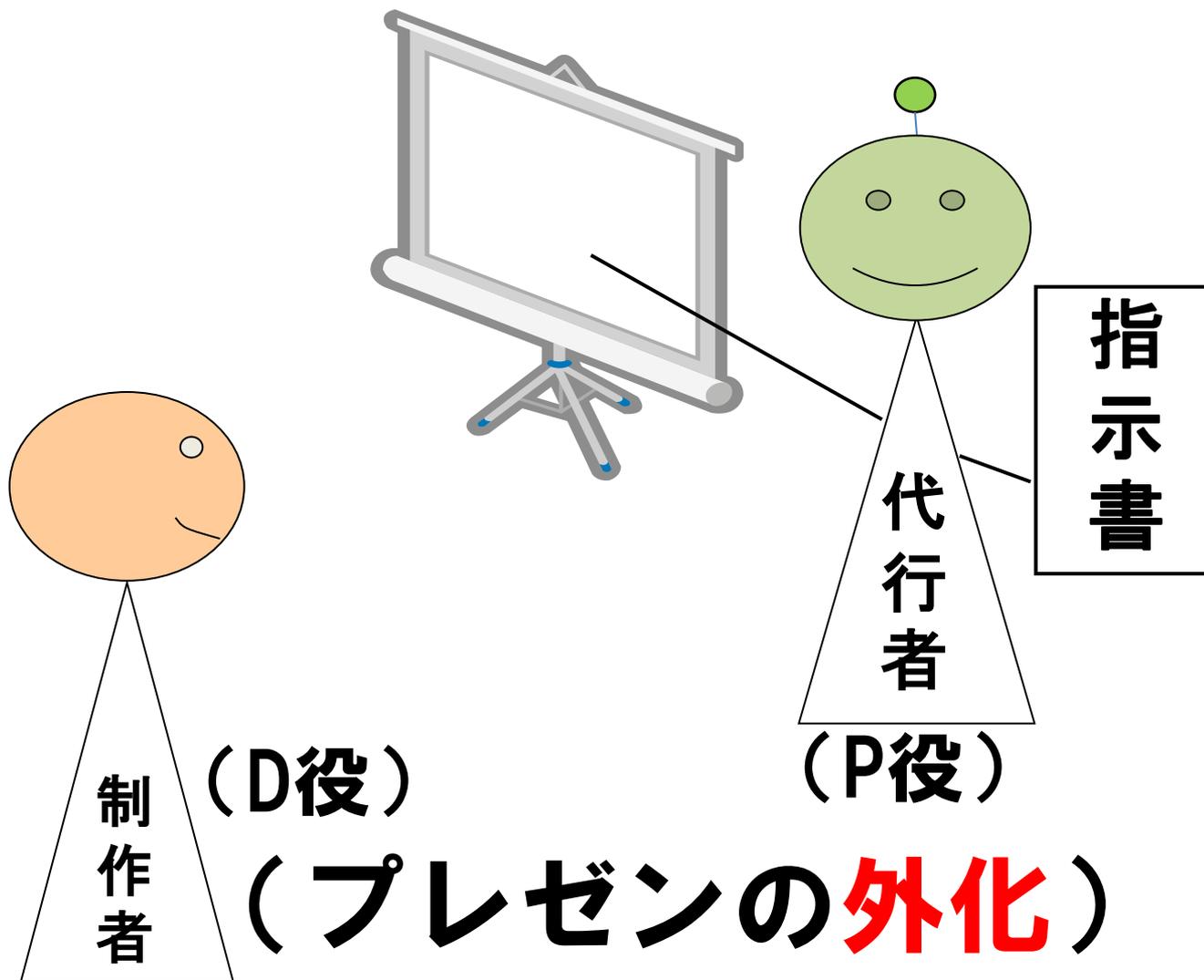
# 指示書の修正(プレゼンの修正)



違う部分があるな。指示がまずかったのかも。プレゼン内容もわかりにくい部分があるな。

(第1段階のリフレクション)

# リハーサル代行



# リハーサル代行でのリフレクション

考えてきた  
プレゼン  
のイメージ

代行して  
もらった  
プレゼン

代行のプレゼンと  
イメージにずいぶん  
差があるな。  
ストーリーや演じ方  
がおかしいので  
はないか？

制  
作  
者

(D役)

(第2段階のリフレクション)

# 実践の結果

## ○実践科目「マルチメディア基礎」

2007年後期 ?人

2008年後期 ?人

2009年後期 ?人

2010年後期 ?人

2011年後期 ?人

## ○リフレクションの強化

→ 受講生の気づきが増え、  
リフレクションを強化できた。

# D-P方式**提案**の研究発表

- D-P方式によるプレゼンテーション教育方法  
教育システム情報学会(2008)
- プレゼンテーションのプランニングに注目した  
D役-P役方式  
情報文化学会(2008)
- D-P方式によるプレゼンテーション教育 -リ  
ハーサルでの指示役と指示受役のコミュニケー  
ションについて-  
情報コミュニケーション学会(2009)

# D-P方式**実践**の研究発表

- D-P方式によるプレゼンテーション教育方法  
-授業の過程と実践における留意点-  
教育システム情報学会研究会(2009)
- D-P方式によるプレゼンテーション教育(2)  
-大学における実践事例-  
教育システム情報学会(2009)
- D-P方式によるプレゼンテーション教育-役割  
意識とプレゼン代行からのリフレクション-  
情報文化学会(2009)

# D-P方式**評価**の研究発表

- プレゼンテーション教育でのリフレクションの強化(1) – プロトコルから見た気づきの差異 –  
教育システム情報学会(2011)
- プレゼンテーション教育でのリフレクションの強化(2) – 代行リハーサルとひとりリハーサルの気づきの差異 –  
教育システム情報学会(2011)

# プレゼン教育での研究業績

- D-P方式によるプレゼンテーション教育方法,  
情報コミュニケーション学会誌(2009)
- リフレクションに着目したプレゼンテーション教育手法ー8つの教育のタイプー, 園田学園女子大学論文集(2012)

# まとめ

## ○基盤研究(C)

**「情報社会における表現力を育成する役割別  
能力育成・リフレクション方式の研究」、**

**課題番号21500917**

**論文2本 研究報告14件**

## ○リフレクションに着目したプレゼン教育の手法 を確立

# 第2部

## プレゼン発表会・ワークショップ

主催者: 正木幸子(大阪商業大学)

: 横山宏 (大阪電気通信大学)

報告者: 村上和繁(園田学園女子大学 契約職員)

# ワークショップ開催の背景

○プレゼン教育の実践の中で…

→ いろいろな学生が存在



○いろいろなプレゼンの学びの機会があっても

○大学でプレゼンをする機会は…

# 大学でプレゼンをする機会

- 情報リテラシー科目
  - 卒業研究・卒業制作
  - インターンシップの報告会
  - 教育実習の報告会
  - PBLでのプレゼン
  - コンペでのプレゼン など
- どの機会でも・・・
- プレゼンをするまでの準備が大変
  - 発表会に出る敷居が高い

# プレゼンを学ぶ機会を提供

○プレゼンをやりたい、プレゼンを学びたい学生



○気軽に参加できる機会を提供

○ノルマなし、堅苦しくない

○責任感やマナーは必要

# 発表会の企画

**参加者:プレゼンをしてみたい学生**

**プレゼンを学びたい学生**

**テーマ:学生が経験した内容**

**学生がすでに行なった活動**

**○プレゼンは教員が指導する**

**○学びの機会を設ける**

# 社会人基礎力を意識した 学生発表会

**実施日時:2011年12月11日**

**主 催:正木幸子(大阪商業大学 教授)**

**横山宏(大阪電気通信大学 准教授)**

**協 賛:情報教育学研究会(IEC)**

**情報教育学研究会 高等教育研究部会**

# 教員とスタッフ

- 正木幸子（大阪商業大学）
- 横山宏（大阪電気通信大学）
- 稲浦綾（大阪電気通信大学  
先端マルチメディア合同研究所）
- 森石峰一（大阪電気通信大学）
- 宇治典貞（大阪電気通信大学大学院 院生）
- 村上和繁（園田学園女子大学 契約職員）  
（敬称略順不同・所属は当時）

# 発表者の詳細

発表者	学年	発表テーマ	科目	指導教員	発表順序
A	4年	卒業研究	卒業研究	横山	1
B	2年	教職科目での経験	教職科目	森石	2
C	4年	教育実習での経験	教職科目	森石	3
D、E	3年	東京ゲームショーへの出展	問題解決	稲浦	4

# 発表会の様子

最後に: 基準シートには3つのタイプ

- 予復型  
予習なのか、復習なのか
- 手段型  
参加準備に何をしてきたのか
- 回顧型  
授業を受けてみてどうだったのか

# 発表会の反応

## ○発表後の発表者のコメント

- 課題とした笑顔で、抑揚のあるプレゼンができた。  
聴衆の反応もこれまでとは違い、自分もリラックスして発表できた。
- プレゼンでの主張を絞り、明確にすることが重要だと学んだ。
- 自分たちの実績を広くアピールでき、製作したゲームについても、聴衆から多くの質問を受けて、興味を持っていただけてよかった。

# 発表会の反応2

## ○教員のコメント

→ストーリーやプレゼンのパフォーマンスについて十分な指導時間をとることができた。

→学生のラーニング・アウトカムズを把握することができた。

→学生が自ら課題を設定し、プレゼンに挑戦している様子が見て取れた。

# まとめ

- プレゼンをやりたい、学びたい学生のための  
学びの機会として、発表会を企画、実践
- 参加者、教員からも良いコメントを得た。
  
- プレゼンの学びの新しい機会
  
- プレゼンを学びたい学生が一步前へ踏み出す  
手助けができた。

# 今後の予定

○ワークショップ(年2回開催予定)

→開催済

2011年12月11日開催

社会人基礎力を意識した学生研究発表会

2012年6月17日開催

社会人基礎力を意識したプレゼンテーション・  
ワークショップ

→開催予定

2012年12月9日開催 タイトル未定